

水産広場オホーツク

No.220 2007. 4. 13

【オホーツク海におけるマガレイの漁況予測について】

2007年度(平成19年度)のマガレイの漁況予測を発表しました。オホーツク海域における概要は以下のとおりです。

●夏漁(2007年5月～8月:3歳魚が漁獲の中心)

2007年度の予測(2006年度同期と比較して)

夏漁 漁獲量は増加
秋漁 漁獲量は前年並み

この時期は例年3歳魚が漁獲の中心となります。幼魚調査の結果から2007年の3歳魚(2004年級群)は初期資源量が多いと考えられ、漁獲量は前年(231トン)に比べ増加すると予想されます。

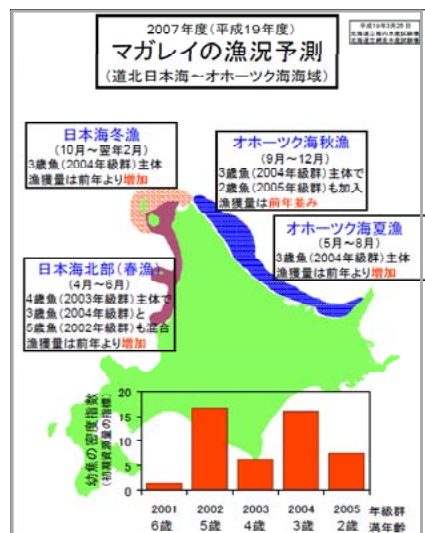
●秋漁(2007年9月～12月:2歳魚が新たに加入)

例年秋漁には、漁獲サイズにまで成長した2歳魚も加入してきますが、今年の2歳魚(2005年級群)の資源量は幼魚調査の結果から少ないと考えられます。そのため、夏漁に引き続き漁獲は3歳魚が中心で2歳魚の加入は少なく、漁獲量は前年(207トン)並みになると予想されます。

【平成19年度網走水産試験場事業概要について】

平成19年度の当水産試験場における事業概要は、以下のとおりです。但し、新規事業として予定されているものは、記載しておりません。決定後あらためてお知らせ致します。

担当	研究課題名	研究内容
調査研究部	漁業生物の資源・生態調査研究(継続)	カレイ類、キチジ、ミズダコ、ケガニ、スケトウダラ、ホッケ、サンマ、その他浮魚類、ウニ類の分布様式、年齢、成長等の基礎的生態の解明、資源評価の判定と汽水湖の環境保全技術の開発
	資源評価調査(継続)	スケトウダラ、マダラ、ホッケ、キチジ、マガレイ、ニシン、サンマ、マイワシの生物情報収集調査、生物測定調査
	水産資源管理総合対策事業(継続)	カレイ類の生物測定調査、漁獲統計調査、調査船調査
	ほたて貝対策試験調査(継続)	貝毒プランクトン調査と検査結果の関係機関への速報
	ホタテガイ浮遊幼生分布動態調査(継続)	ホタテガイの生殖巣指数の変化、浮遊幼生の出現数、付着推員数のデータ収集
	漁場環境保全推進事業(継続)	生物モニタリング調査
	ホタテガイ衛生管理高度化推進事業(継続)	対EU輸出に向けての貝毒プランクトン検査
	ホタテガイ成長モニタリング調査(継続)	放流ホタテガイの成長及び海洋環境調査
	ホタテガイの足糸部異常に関する調査研究(継続)	異常出現状況の実態把握、異常部位の性状調査、長距離輸送耐性試験、回収率に対する影響調査
	北海道周辺海域におけるDNAマーカーを利用したマツカワの放流効果および再生産効果の解析・評価(継続)	DNAマーカーによりマツカワ種苗放流の多様性を把握し、遺伝的多様度変化のモニタリングと、親子鑑定技術に応用した放流種苗の分布・移動マップの作成と放流効果の推定
加工利用部	超微細化技術(ナノテクノロジー)によるマリンサプリメント素材の開発(継続)	超微細化技術の開発、超微細化による機能性の評価、超微細化素材の品質保持技術の開発
	水産加工技術普及指導事業(継続)	移動加工相談室の開催、巡回指導の実施



【オホーツクサーモン山漬け製造マニュアルの発行について】

関係機関には、既に配布済みですがこのたび、当水産試験場加工利用部では、網走第一水産加工業協同組合と協力して、オホーツク海域の特色を生かした良質な水産加工品づくり推進の一環として、まだ取組事例の少ないオホーツクサーモン(カラフトマス)の山漬けの製造マニュアルを作成しました。

マニュアルでは、高品質(安全・安心)でかつ熟成による美味しさ(旨味)を引き出す製造ポイントを工程別に来るだけ分かりやすく紹介するよう心がけました。関係者の方々の今後の業務にご活用いただければ幸いです。

なお、このマニュアルは、当水産試験場ホームページ(マリンネット北海道内)において公開しておりますので、併せてお知らせします。

網走水産試験場ホームページアドレス

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/abashiri/index.htm>

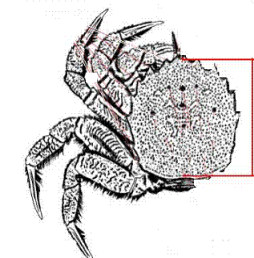


【網走支庁管内におけるケガニ漁場一斉調査を行います。】

網走水産試験場では、ケガニ資源の適切な管理を進めるため、昭和60年から毎年1回、漁期(網走管内3月下旬～8月下旬)の前半にケガニ漁場一斉調査を実施しています。

この調査は、ケガニかご漁業による漁獲状況をモニタリングするためのもので、今年も4月中旬から網走支庁管内の5地区で「網走支庁管内毛がに漁業対策協議会」及び「関係漁協がにかご部会」、「網走支庁水産課」、「網走地区水産技術普及指導所」の協力の下で、漁獲尾数や体重、甲長などの測定を実施することとしています。

今後、漁期の後半に行う「資源密度調査」の結果や稚内水産試験場が担当している宗谷管内の調査結果と併せて、資源の状況を解析し、上記の「網走支庁管内毛がに漁業対策協議会」等に「資源の状況から見て望ましい漁獲量」を提案していくこととしています。



ケガニの甲長の測り方

<<マリンネット北海道ホームページ <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp> >>

網走水産試験場 網走市鱒浦1丁目1番1号 TEL:0152-43-4591

FAX:0152-43-4593

調査研究部直通 TEL:0152-43-4592

TEL:0152-43-2796

加工利用部 紋別市港町7丁目8番5号 TEL:0158-23-3266

FAX:0158-23-3352